

登録コード	A3212300	開講年度	2026	市民開放授業			
授業科目	アニマルウェルフェア科学				担当教員	竹田 謙一	
英文授業名	Animal welfare science					高木 優二・吉沢 隆浩・田中 沙智・富岡 郁夫	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	水曜・3時限	対象学生	3年生
講義室	農学部 2 3 番講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2 0 2 2 Aカリ, 2 0 2 1 Aカリ, 2 0 2 0 Aカリ, 2 0 1 9 Aカリ						
	【2022年度以前加付対象】専門的な知識や研究能力を修得している				アニマルウェルフェアについて正しく理解、説明でき、動物の取り扱いに関する倫理的配慮ができる。		
	2 0 2 6 A3 編 (24A), 2 0 2 5 A3 編 (23A), 2 0 2 4 Aカリ, 2 0 2 3 Aカリ						
	【2024年度以前加付対象】専門的な知識や研究能力を基礎としての確かな情報を収集・理解し、発信できる能力を修得している。				アニマルウェルフェアについて正しく理解、説明でき、動物の取り扱いに関する倫理的配慮ができる。		
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム	ローカル・イノベーター養成コース、環境マインド実践人材養成コース						
(4)授業の概要	アニマルウェルフェアの定義を的確に捉えるとともに、そのような考え方に至った歴史的経緯を様々な動物観、倫理観の視点から解説する。さらに、アニマルウェルフェアは科学であるとの視点から、その様々な評価法を解説する。また、動物資源生命科学分野において必須となる動物実験を実施するうえで、必要な知識、技術を解説する。加えて、農用動物、展示動物、野生動物とアニマルウェルフェアとの関係について、解説する。						
(5)授業計画	第 1 回：アニマルウェルフェア（AW）の概念と定義（竹田：4/15） 第 2 回：AWの関連法、国際コード、指針など（箕輪：4/22） 第 3 回：世界の動物観、環境倫理と動物倫理（竹田：4/30） 第 4 回：AWの科学的評価（1）行動学的反応と測定（竹田：5/13） 第 5 回：AWの科学的評価（2）生理学的反応と測定（竹田：5/20） 第 6 回：AWの科学的評価（3）免疫学的反応と測定（田中：5/27） 第 7 回：実験動物の飼養管理と繁殖制御（高木：6/ 3） 第 8 回：実験動物としての霊長類（富岡：6/10） 第 9 回：動物実験に関する法規制と倫理（山中：6/17） 第10回：実験動物とその利用（吉沢：6/24） 第11回：動物の取り扱いに対する様々な意見とテーマ設定（竹田：7/ 1） 第12回：グループディスカッション（A班vsB班）（竹田：7/ 8） 第13回：グループディスカッション（C班vsD班）（竹田：7/15） 第14回：グループディスカッション（E班vsF班）（竹田：7/22） 第15回：レポート作成（授業アンケート含む）（竹田：7/29）						
(6)自主学習の指針	自主学習では、後掲の参考書や授業で紹介する書籍を用いること。また、各授業で配付される資料やレジュメなども活用すること。 講義後半では、各班に分かれてのグループディスカッションを行うので、各回での講義内容を復習して、グループディスカッションの準備をしてください。						
(7)成績評価の基準	授業の達成目標の水準からみて『卓越している』/『かなり上にある』/『やや上にある』/『その水準にある』の基準より理解度を評価します。						
(8)事前事後学習の内容	多くの分野からなる講義です。事前に教科書には目を通し、当該の回に関する基礎的知識を身に付けてください。 動物倫理の他、産業動物、展示動物、伴侶動物等を対象に、科学的に動物の状態（welfare）を評価している実例が多数、紹介されています。						
(9)テストやレポートの予定	毎回の授業の最後に小テスト、もしくは小レポートを課す。 グループディスカッションでの活発な議論と論理的な意見の主張を、受講学生相互で評価してもらおうと同時に、主担当教員である竹田が評価します。						
(10)成績評価の方法	小テスト（50％）とグループディスカッション（50％）で評価します。90点以上を「秀」、89-80点を「優」、79-70点を「良」、69-60点を「可」、59点以下を「不可」として評価します。						
(11)質問、相談への対応および連絡先	個々の講義内容については、それぞれの授業時間中に対応する。それ以外については、取りまとめ教員の竹田までメールktakeda@shinshu-u.ac.jpで質問すること。						
(12)履修上の注意	講義後半ではグループディスカッションを行います。 各回の講義内容の理解だけにとどまらず、動物のウェルフェア（福祉）全体、また、研究や食品安全性担保のための動物実験の利用等々、幅広く興味を持って、講義を受けてください。 この授業は令和8年度まで開講されますが、令和9年度以降は開講されません。						
【教科書】	特に指定はしませんが、興味のある人は下記の参考書を1つ選んで、読んでみてください。						
【参考書】	動物福祉学（新村編、昭和堂、2022） 動物福祉の科学（佐藤・加隈監修、緑書房、2017） 動物福祉学入門（上野ら編著、農林統計出版社、2014）						

【参考書】	動物からの倫理学入門（伊勢田著、名古屋大学出版会、2008） 動物倫理入門（L. グルーエン著、大月書店、20105） 動物の開放（P. シンガー、人文書院、2011） 動物たちの心の世界（M. ドーキンス） 動物の命は人間より軽いのか（M. ベコフ、中央公論新社、2005） 動物裁判（池上著、講談社現代新書、1990） いのちを“つくって”もいいですか?—生命科学のジレンマを考える哲学講義（島園著、NHK出版、2016） 完全な人間を目指さなくてもよい理由 - 遺伝子操作とエンハンスメントの倫理 - （M. サンドル、ナカニシヤ出版、2010） 動物と人間の文化誌（国立歴史民俗博物館編、吉川弘文館、1997） 動物観と表象（奥野・秋篠宮編著、岩波書店、2009） 家畜の文化（秋篠宮・林編著、岩波書店、2009）
-------	--